

# かがやく瞳

No. 7号

発行日 平成31年2月25日  
発行責任者 豊福 猛  
編集 社会福祉法人  
北見福祉会広報委員会

〒090-0835 北見市光西町178-5  
TEL 0157-57-5057  
FAX 0157-57-4767

じょうぶな体の子ども ゆたかな心の子ども のびのび遊ぶ子ども

## 卒園、入学の時季を迎えて

今年のオホーツク地方は晴天に恵まれる日が多く、静かな年明けになりました。その後は、北海道の上空に発達していた低気圧が停滞するという典型的な「西高東低」の冬型の気圧配置が強弱を繰り返しながら続きました。暖かな春を迎えるまでには、まだ暫くかかりそうですが、穏やかな天候が続くことを願っています。

さて、年長組の子ども達が卒園し、小学校に入学するまで1か月余りとなり、各こども園では、卒園式の練習も始まりました。また、子ども達は、小学校のことが話題になるたび、小さな心に不安を感じているようです。こども園生活は残りわずかになりましたが、小学校で必要な生活習慣を身に付け、また、ご家庭やこども園での励ましにより、期待に胸を膨らませながらの卒園式、入学式を迎えさせてあげたいものです。

今号では、子ども達の心の成長としての『非認知能力』についてお知らせします。



## 「臨界期」(最も感性豊かな時期)

『臨界期』という言葉があります。これは、生物が生きていくための能力を高めたり、また、心身の成長を促すための刺激を与えたりするために、最も適当な時期のことを言います。

アヒルやガチョウの卵が孵化すると、親鳥はすぐにひな鳥の周りを歩き回ります。これは、ひな鳥には、孵化して最初に目に入った動くものの後ろを歩く習性があるからです。ひな鳥が親鳥の後ろを列になって移動するのは、外敵から身を守るため、ひな鳥にとって、生きていくための最初の能力を身に付ける『臨界期』は、孵化した瞬間と言えるのでしょね。

さて、「三つ子の魂 百まで(も)」という諺(ことわざ)を聞くことがあると思います。3歳くらいまでに身に付けた性格や考え方、感性などは、百歳(大人)になっても変わらないという意味合いです。

すべてがその通りと言い切ることはできませんが、子ども達の情緒や心情を育てる最も重要な時期が幼い頃であることは間違いありません。このようなことで、3歳くらいが、子どもの心の成長にとって、一番大切な時期『臨界期』と言えるのかも知れません。

## 「非認知能力」(数値で測り知れない能力)

豊かな感性や他を思いやる心、我慢強さやいろいろなことに興味や関心を持つ気持ち、積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲などは『非認知能力』と呼ばれ、「生きる力」の一環であり、子ども達にとって生涯にわたり必要になる能力です。この基礎は、幼児期に育てることが大切であると言われているため、幼児教育の分野では、その育成が大切にされています。

小学校低学年のお子さんを持つ保護者に、「どのような子どもに育てたいですか。」と尋ねると、「誰にでも優しく、約束を守る素直な子ども」とか、「何にでも興味をもって、最後まで頑張れる子ども」などとの返答があります。これらは、すべて『非認知能力』と言われるもので、前述からも親としてその大切さを十分に理解されていることが伺えます。

もう少し大きくなると「高い価値観を持ち、確かな学力を身に付ける。」とか、もっと具体的に「勉強を頑張ってレベルの高い学校に入学できる。」などの声も聞こえてきそうです。

しかし、この実現のためには、豊かな感受性や学ぶことへの興味、最後まで諦めずに頑張る気持ちや少々のことにくじけない耐性などが必要になり、小さい頃に身に付ける『非認知能力』との関連が大きいことが分かります。

『非認知能力』は「心の土台」とも言われ、教えられて身に付くものではなく、子ども自身が触れたり感じたり、嬉しくなったり悲しくなったり、時には怖い思い



や悔しい気持ちを味わう中で、少しずつ育っていきます。そのため、『非認知能力』を育てるためには、子どもなりに心を震わせる小さな体験の積み重ねが大切になります。同時に親や周りの大人、そして友達との触れ合い方によって、この能力の育ち方を早めたり、強めたり、さらに深めたりすることが可能になります。そのため、子どもの心や成長段階の理解を基盤に積極的な関わりを持つことも重要になります。



『非認知能力』を育てるための“子どもとの触れ合いや関わり”について、次に簡単にまとめました。内容は他項目との重複が多く、明確に分けることはできません。

項目	子どもと触れ合う親や周りの大人が、絶えず考え、意識していたいこと
優しさ・思いやり	◎子どもへの優しい話し方や親子の触れ合いが、友達に優しく接する子どもを育てます。 ◎小さな子どもでも、自分への思いは敏感に感じ取り、心地良さを忘れません。 ◎周りからの優しさを、友達にも味わわせたいとの気持ちが、思いやりの心を育てます。
意欲的な態度	◎頑張る姿を認める言葉は、自分の活動の正しさへの気づきにつながります。 ◎親、周囲の好意的な眼差しは、自分の行動に自信を持たせ、自己肯定感を深めます。 ◎自分への確かさを感じながらの行動や活動は、一層の意欲的な態度を育てます。
我慢強さ	◎心からの称賛は、頑張ること、やり遂げることの素晴らしさを、子ども達に感じ取らせます。 ◎励ましにより、やり遂げたとき、子どもは満足感とできる喜び、分かる楽しさを味わいます。 ◎友達と辛さを乗り越える中で、耐性と助け合い励まし合い認め合う態度を身に付けます。
規範意識	◎善悪が理解できない小さな子どもは、周りの大人の表情により良し悪しを判断します。 ◎集団生活の中で、小さな約束を守る積み重ねが、きまりの大切さの理解につながります。 ◎規則を守れた時の親の満面の笑みと、約束違反をした時の悲しみの眼差しが、子どもの小さな心を動かします。
興味関心	◎子ども達の楽しみながらの体験や経験の積み重ねが、興味や関心を持つ心を育てます。 ◎子どもの質問に的確に答えることが、新たな興味や疑問を持たせることにつながります。 ◎興味や関心を喚起する意図的、計画的な取組が、子どもの探求心を育てます。

上表のように、子ども達と関わりを持つ家族や保育教諭など、人的な環境が『非認知能力』の育成に大きな影響を与えます。その中でも最も大切にしたいのは、親子や家族の愛情溢れる触れ合い、そして、子ども達の気持ちを共感的に受け止める会話と言えます。

3月23日(土)各こども園にて平成最後の卒園式が行われます。保護者の皆様には、北見福祉会各こども園の教育・保育の推進に、大変なご協力をいただき心より感謝申し上げます。新年度におきましても、次代を担う子ども達の健全育成のために鋭意努力する所存ですので、これまでと変わらぬ、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

～ 北見福祉会 役員・職員一同 ～

## 各園での「こども達の様子」をちょっと紹介しましょう。

### ☆☆夕陽ヶ丘認定こども園☆☆



《朝ご飯って大事だね!》

2/15(金)朝ご飯の大切さについて栄養士の先生からお話を聞きました。朝ご飯を食べると力が湧いてきて体が丈夫になる事など自分の体に良い事がたくさんある事を知ることが出来ました。グループ毎に3色食品群にあてはめながら、バランスの良い朝ご飯を考えました。「明日の朝ご飯はこれがいいなあ」と話していましたよ!

### ☆☆光西認定こども園☆☆



《ごっこ遊び》

1/30(水)「いらっしゃーい!」「どうしましたか〜?」元気な声が響いてきます。今年のお店は、スイーツショップ・病院・おたのしみ屋さん☆ どのお店でも、子ども達がイキイキと楽しんでいました。今年も突如現れた、毎年恒例、主幹保育教諭のくじやさんは、今年も大繁盛でしたよ。

### ☆☆みなみ認定こども園☆☆



《まつり太鼓：ひまわり組》

毎年「卒園式」で年長クラスが“太鼓”を発表しています。毎日、ひまわり組のお部屋からは『ドン ドン』と低い音が聞こえてきます。他のクラスが雪遊びで園庭にいても、外まで響く太鼓の音。年長さんの頑張りが伝わってくるのと、どんな“まつり太鼓”を披露してくれるのか楽しみです。